

かみのかわ

合併 60 周年記念号



Traces in the Photograph
The story of past and
present of Kaminokawa

上
第2章

三
川

川

田

年

変

遷

昭和30(1955)年、春に河内郡上三川町、本郷村、明治村が合併してがわ
わたしたちの上三川町は50年のあゆみを続けてきました。
人口19,826人でスタートした町が、30,000人達成の現在までに成長する過程には、
町民が創造した多くのドラマがあります。
貴重な歴史を辿り、未来のまちづくりに活かすため、ここに記録しました。

●ごあいさつ	2~3
●上三川のあゆみ	4~9
●上三川のひと	10~11
●上三川の歳時記	12~13
●上三川の数字	14~15
●空から見た上三川	16



ごあいさつ

上三川町は、昭和30年4月29日に当時の河内郡上三川町、本郷村、明治村が合併し、新たな歴史を刻んでから、本年で合併60周年の記念すべき年を迎えました。こうして記念すべき年を迎えることができましたことは、幾多の困難を乗り越えられてきた諸先輩をはじめ、多くの町民の皆様のご支援とご協力の賜であるところから感謝申し上げます。

顧みますと、合併当初には人口1万9千人の農業の町であった上三川町は、昭和46年の日産自動車の操業開始をきっかけとして都市化が進み、田園工業の町へと目覚ましい変貌を遂げてまいりました。この間には、広域幹線道路の新4号国道を中心に体系的な道路網が確立され、それが地域開発の更なる発展を促し、ベッドタウンとして定住者も増え、現在では人口3万1千人を超える町にまで成長を遂げるに至っております。

さて、我が国では、少子化・高齢化が一層進展することが見込まれ、各地域が、各々の特徴を活かした自律的で持続的な社会の創生が望まれており、本町においても人口減少の克服、地域の活性化が、地域発展のための課題となっております。町民の皆様が地域で豊かに暮らし続け、新しい住民を如何にして増やすか、地域の活力をどのように引き出すか、まさにこれからが正念場であります。この町村合併60周年の記念の年を契機として、改めて先人たちの功績に感謝すると共に、町の更なる発展を誓い、本町の伝統や文化を継承する中で、多くの町民皆様の知恵と活力を集結し、町の活性化のために、今後も引き続き、「町民参画と協働の精神」のもと、町民誰もが住んで良かったと思う、魅力ある上三川町の実現に向けて邁進してまいります。今後とも町民の皆様により一層のご支援とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

平成二十七年十一月

上三川町長 星野光利

町民憲章

昭和51年11月 制定

わたくしたちは、上三川町民であることに誇りをもち、さらに、一層の発展をめざし、明るく住みよい郷土を築くため、この憲章を定めます。

- 一、心身をきたえ、教養を深め、文化の高い町をつくりましょう
- 一、郷土を愛し、環境をととのえ、住みよい町をつくりましょう
- 一、互いに励まし、心をふれあい、明るい町をつくりましょう
- 一、勤労をとうとび、産業をさかんにし、豊かな町をつくりましょう
- 一、きまりを守り、よい家庭を築き、平和な町をつくりましょう

上三川町民の歌

昭和53年3月 制定
作詞 泉漾太郎 作曲 中田喜直

伝統歴史の誇りを継ぎて
しげれる銀杏に 郷土の息吹き
おおいなるかな 上三川
夢は男体山 豊かな理想
語りつづけよ 伸びゆく町よ

生産宝庫の誇りを奏で
ほほえむ夕顔 郷土の賛歌
うるわしきかな 上三川
鬼怒川は水明 豊かな大地
抱きつづけよ 伸びゆく町よ

商工文化の誇りを胸に
はばたく白鷺 郷土の翼
たくましきかな 上三川
かける緑野 豊かな未来
励みつづけよ 伸びゆく町よ



〔町の鳥〕 しろさぎ



〔町の花〕 ゆうがお



〔町の木〕 いちよう

上三川町のあゆみ

上三川町の10年（昭和30年～昭和39年）

昭和30年

- 4月 上三川町、本郷村、明治村が合併し、新しい上三川町が誕生
- 5月 町長選挙、小口隆次氏が当選就任
- 11月 合併記念式典を上三川小学校で挙行



昭和32年

- 7月 地区農業委員会を廃止し、農業委員会の選挙を行う
- 10月 旧本郷村の区域で行った国民健康保険事業を全町で行う

昭和33年

- 6月 本郷小学校で学校給食が始まる

昭和34年

- 5月 役場新庁舎の落成式を行う



昭和35年

- 6月 本郷、明治支所を廃し、出張所とする
- 7月 工場誘致条例を制定
- 9月 町商工会発足
- 11月 町主催の産業祭開催

昭和37年

- 3月 定時制上三川分校廃校
- 6月 「町民体操」がテレビ放送で全国で紹介



昭和38年

- 3月 東蓼沼の渡し船廃止



昭和20年代中頃 勝瓜・汗の渡しの風景

昭和39年

- 10月 大野原工業団地に日産自動車誘致決定
- 10月 東京オリンピックピック開会、聖火ランナーが鞘堂を通過



昭和31年

- 1月 議会議員選挙を行う
- 10月 社会体育優良団体として全国表彰
- 11月 広報かみのかわ創刊

上三川町のあゆみ

上三川町の20年（昭和40年～昭和49年）

昭和40年

- 3月 蓼沼保育所落成
- 4月 結核予防対策優良市町村として財団法人結核予防会総裁・秩父宮勢津子妃殿下より表彰賜る
- 8月 大町に商工会館完成
- 11月 合併10周年式典挙行 第1回文化祭開催

昭和41年

- 1月 新春祝賀駅伝マラソン大会開催



- 4月 大山保育所開所
- 6月 台風4号で被害
- 9月 台風26号で被害
- 11月 大山にて赤痢発生、町営水道の整備が進められる

昭和42年

- 5月 桜井仙正氏が町長就任
- 10月 町民ハイキング開催



昭和43年

- 10月 ごみ収集開始
- 1月 町章決定
- 3月 日産自動車栃木工場起工
- 11月 明治百年記念町民体育祭開催

昭和44年

- 6月 大山簡易水道給水開始

昭和45年

- 4月 大山児童館開館
- 4月 本郷中学校校舎落成
- 7月 宮岡橋開通
- 8月 町南部に竜巻発生、被害総額1億7,700万円
- 11月 新町発足15周年記念体育祭・文化祭開催

昭和46年

- 3月 上三川保育所落成
- 4月 日産自動車栃木工場竣工



- 12月 上三川小学校校舎落成
- 11月 宇都宮貨物ターミナル駅運送業務開始



昭和47年

- 1月 町のスローガン決定
- 6月 NHKのど自慢が上三川小学校体育館で行われる
- 8月 石橋地区消防組合上三川分署開庁

昭和48年

- 6月 蓼沼児童館開館
- 7月 中央公民館開館



昭和49年

- 6月 田川、江川改修工事完成祝賀式挙行
- 8月 新4号国道一部開通
- 8月 上三川中学校新校舎に移転

上三川町のあゆみ

上三川町の30年(昭和50年～昭和59年)

昭和50年

- 3月 上三川音頭の曲ができる
- 4月 稲葉宗敏氏が町長就任
- 5月 合併20周年記念式典挙行



昭和51年

- 7月 本郷小学校校舎落成
- 11月 町民憲章、町の木・花・鳥制定



昭和52年

- 3月 本郷小学校南分校閉校
- 5月 坂上小学校舎落成

昭和53年

- 4月 ふざかし保育所開所
- 4月 上郷児童館開館
- 5月 明治中学校新校舎落成
- 6月 町民の歌制定

昭和54年

- 3月 明治南小学校校舎落成
- 7月 社会福祉協議会設立

昭和55年

- 4月 北小学校開校
- 5月 勤労者体育センター落成
- 8月 役場新庁舎落成



- 8月 北小学校校舎落成
- 8月 明治小学校北分校閉校
- 10月 「栃の葉国体」秋季大会開催



昭和56年

- 12月 上三川郵便局移転
- 11月 上三川町史作成



上三川町史 全5冊(各2千円)

昭和57年

- 3月 本郷北小学校落成
- 4月 本郷小学校北分校閉校

- 11月 第1回「ふるさと祭り」開催



昭和58年

- 3月 図書館・保健センター落成



昭和59年

- 4月 県立上三川高等学校開校
- 6月 老人福祉センター開館
- 8月 明治小学校校舎落成

上三川町のあゆみ

上三川町の40年(昭和60年～平成7年)

昭和60年

11月 合併30周年記念式典挙行



昭和61年

11月 農村環境改善センター全施設利用開始
11月 大山保育所開所

昭和63年

4月 上三川町観光協会発足
8月 台風10号が町を直撃
11月 第1回ふれあい朝市開催
4月 公共下水道一部供用開始
6月 町道300号線開通

6月 愛宕神社奉納相撲「とちぎの祭り百選」に選定

平成元年

3月 西通り(もみじ通り)開通
4月 シルバー人材センター設立

平成2年

2月 川の一里塚完成
6月 磯川緑地公園が「とちぎの道と川百選」に選定



平成3年

5月 大塚弘氏が町長就任

平成4年

3～4月 「道の駅」実験

12月 学校週休5日制開始
ゆうきが丘ニュータウン・本郷台団地分譲開始



12月 多功南原工業団地(テクノパークかみのかわ)分譲開始

平成5年

4月 第1回上三川城址公園花まつり開催



11月 第1回「いきいきかみのかわ祭り」開催

平成6年

7月 武名瀬川と篠郷川一級河川に指定

平成7年

5月 かみのかわ工業団地操業開始



5月 猪瀬成男氏が町長就任

上三川町のあゆみ

上三川町の50年(平成8年～平成17年)

平成8年

3月 「名木古木」35本を認定



石田コミュニティセンターのケヤキ(左)と
明治小のボダイジュ(右)

平成9年

3月 福祉作業所「ふれあい館」落成

9月 石橋駅東土地区画整理事業

12月 第1回「一年越大御輿渡御」開催

平成10年

4月 からくり時計・大通り公園完成



平成11年

9月 農産物加工所開所

3月 地域振興券発行

4月 磯川「ふれあい橋」完成

8月 第1回中学生海外派遣事業実施

9月 並木山王土地区画整理事業完成

9月 役場所在がしらすさぎ一丁目

10月 町ホームページ開設

平成12年

7月 北関東自動車道一部開通

平成13年

3月 クリーンパーク茂原完成

3月 ゆうがお公園、蓼沼親水公園開園



平成14年

7月 人口3万人突破
8月 健康交流センター「コ・テ・ランネ」開館

3月 学校給食センター完成



平成15年

4月 農業公社設立
8月 上神主茂原官衙遺跡が国指定史跡となる



平成16年

4月 学校2学期制開始
6月 「感染性医療廃棄物中間処理施設」設置反対総決起大会開催
9月 宇都宮地域合併協議会から脱退を決定

4月 完全学校週5日制実施
12月 市町村合併に関するアンケート調査実施

上三川町のあゆみ

上三川町の60年(平成18年～平成27年)

平成17年

- 8月 石田公園、いちよう公園完成
- 11月 合併50周年記念式典挙行

平成18年

- 3月 上郷児童館閉館
- 9月 大山児童館閉館
- 10月 上三川図書ネットワーク事業開始
- 12月 明治地域福祉センター開所
- 10月 夕顔の里かみのかわ「昔なつかし館」オープン



平成19年

- 4月 田川ふれあい公園オープン
- 6月 (仮称)総合保健福祉センターの名称が「上三川いきいきプラザ」に決定

平成20年

- 6月 上三川いきいきプラザ開館



平成21年

- 8月 第1回かみのかわサンフラワー祭り開催
- 3月 願成寺児童館、夢沼児童館閉館
- 4月 本郷地区地域福祉センター開所

- 10月 第1回町民スポーツ・レクリエーション祭開催



平成22年

- 2月 新宮岡橋が開通
- 3月 心ざかし保育所閉所
- 4月 心ざかしおひさま保育園開所
- 4月 明治コミュニティセンター開所

平成23年

- 1月 名誉町民第1号に、海老原有希氏を認定
- 3月 北関東自動車道全線開通
- 4月 障がい者通所施設「上三川ふれあいの家ひまわり」開所
- 5月 星野光利氏町長就任

平成24年

- 2月 町のマスコットキャラクター「かみたん」に決定



平成25年

- 3月 上三川保育所閉所
- 4月 上三川保育園開園
- 6月 子育て支援センター開設
- 10月 町情報メール「かみたんメール」配信開始

- 3月 デマンド交通「かみたん号」運用開始



平成26年

- 2月 茨城県大洗町と友好都市協定を締結
- 5月 栃木県植樹祭開催



えびはら ゆき
海老原有希

名人・達人

女子初めての
野球キャプテンから陸上部へ



小学校の時、部員が少なかったために先生に誘われて上三川小野球部に入部。男の子を押しのけて、レギュラーに定着。さらに六年生ではキャプテンとしてチームを県大会に引っ張っていきました。親は反対しましたが、仲間たちを守られて女の子一人でも野球はとて楽しかったそうです。



陸上部の仲間とともに練習中
一番右が海老原さん

中学校入学時には迷いました。野球部に入っても試合には出られない。選んだところは陸上部。一年生の種目は百メートル走り幅跳び、宇都宮河内地区大会ではどちらも優勝。県大会では走り幅跳びで優勝。でも彼女の目には、世界長距離界で活躍する日本女性があつて、いたのでは

ないでしょうか。顧問の五月女先生も「彼女はバネもあるし、人一倍意欲もある。将来を考えれば、これからは中長距離があつていいのでは」と話しています。現在は七月二十一日から県総合グラウンドで開かれる地区総体を目ざして、中長距離の練習に明け暮れています。

「体を動かすことが小さいころから好きでした。これから練習しているいろいろな大会に出てみたい」。中学校一年生の未来にはきっと大きな舞台が目ざされていると思えました。

先輩の記録を越えたい
海老原有希さん(下浦生)



今年の全国高校総体(インターハイ)で陸上部のやり投げに挑戦し、県選手権で輝いた。真岡女子高校の二年の海老原有希さん(下浦生)を伺いました。

名人・達人



「先生に誘われて見込まれ、誘われたのが始めだった。やり投げは、やり投げの練習は、みんな先生から始めるので、自分もスタートが良かったと思います。それと、高学年の練習は、自分も頑張りたいです。やり投げの練習は、先生から始めました。やり投げは、やり投げの練習は、先生から始めました。やり投げは、やり投げの練習は、先生から始めました。」

「先生に誘われて見込まれ、誘われたのが始めだった。やり投げは、やり投げの練習は、みんな先生から始めるので、自分もスタートが良かったと思います。それと、高学年の練習は、自分も頑張りたいです。やり投げの練習は、先生から始めました。やり投げは、やり投げの練習は、先生から始めました。」

先生に誘われて見込まれ、誘われたのが始めだった。やり投げは、やり投げの練習は、みんな先生から始めるので、自分もスタートが良かったと思います。それと、高学年の練習は、自分も頑張りたいです。やり投げの練習は、先生から始めました。やり投げは、やり投げの練習は、先生から始めました。」

「先生に誘われて見込まれ、誘われたのが始めだった。やり投げは、やり投げの練習は、みんな先生から始めるので、自分もスタートが良かったと思います。それと、高学年の練習は、自分も頑張りたいです。やり投げの練習は、先生から始めました。やり投げは、やり投げの練習は、先生から始めました。」

小学校では野球部のキャプテン、中学校では陸上部で短距離走の選手として、当時から、その素晴らしい身体能力で活躍し続けてきた海老原有希選手。広報かみのかわでも、その活躍は何度も取り上げられてきました。

そんな海老原有希選手がやり投げを始めたのは、高校に入学してからです。その後めきめきと頭角を現し、平成22年には広州アジア大会において金メダルを獲得。それを受け、翌23年には上三川町で初めての名誉町民に推挙されました。

今後海老原有希選手の活躍に期待し、皆さんで応援していきましょう。

名誉町民第1号に決定!

上三川町出身で広州アジア大会において活躍した海老原有希選手について、12月定例議会で上三川町名誉町民の議決をし、町初めての名誉町民に推挙されました。

なお、1月6日(木)に行われる新春のつどい会場(日産自動車(株)栃木工場ゲストホール)にて、名誉町民の推挙式が行われます。



広州アジア大会での喜びの表情



広州アジア大会での金メダル獲得を報告する海老原さん



海老原 有希さん

昨年の11月に行われた広州アジア大会陸上女子やり投げで、海老原有希選手(上三川町出身、ススキ浜松AC)が、6メートル56センチの日本新記録で金メダルを獲得しました。



祝
海老原 有希選手(上三川町出身)
広州アジア大会陸上女子やり投げで



上三三町のひと

よしざわ
吉澤
あきひろ
章

折り紙を「海外に誇れる日本文化」として世界に普及させたのは上三三町下町出身の吉澤章氏です。

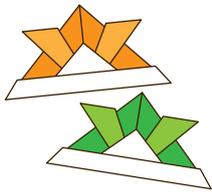
自由表現による創作折り紙が、新しい造形美術として、広く親しまれ、理解されるようになるには多くの時間を要しましたが、昭和30年にはアムステルダム市立美術館で海外初の個展を開き、画期的な造形美術“ORGAMI”として世界の注目を浴びました。

吉澤章氏の折り紙創作の原点はふるさと上三三町にあるといえます。平成17年に94歳で逝去。その遺作は2万点にも及び、その作品の一部が北小に保管されています。



上三三町いきいきプラザにも作品が展示されています。

平成23年の8月には上三三町いきいきプラザにて生誕百周年の折り紙教室が開催されました。



生まれ故郷で作品展
吉澤 章さん
(東京都練馬区)

今日の輝ける星

町出身で、現在東京都に在住する折紙の第一人者として知られる吉澤章さん。このたびはふるさと上三三町に帰郷し、折り紙の魅力を伝えるべく、上三三町に「折紙のふるさと」を創設された。折紙の魅力を伝えるべく、上三三町に「折紙のふるさと」を創設された。折紙の魅力を伝えるべく、上三三町に「折紙のふるさと」を創設された。



田村仁左衛門吉茂

田村仁左衛門吉茂は江戸時代後期に河内郡下蒲生村（今の上三三町下蒲生）の代々名主をつとめる家に生まれ、稲の薄まきや肥料のやり方など、研究の成果をまとめ、国学者である平田篤胤（ひらたあつたね）との出会いを通して、自身の研究の成果「農業自得」を出版しました。その後も精力的に執筆を続け、明治十年に八十八歳で生涯を終えるまで、多くの書物を著しました。

歴史を語る文化財

荒れゆく農村の中で

田村仁左衛門吉茂 (1)

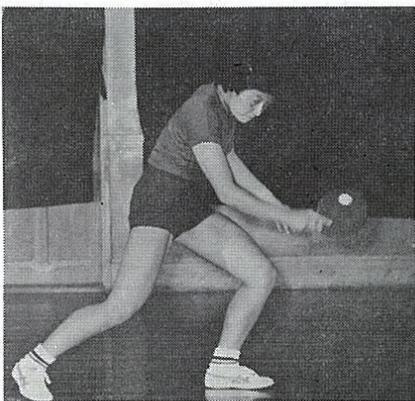


江戸時代は日本中の農村の中で、田村仁左衛門吉茂は、一方では農村の荒れゆく中で、農業の改良を求め、稲の薄まきや肥料のやり方など、研究の成果をまとめ、国学者である平田篤胤（ひらたあつたね）との出会いを通して、自身の研究の成果「農業自得」を出版しました。その後も精力的に執筆を続け、明治十年に八十八歳で生涯を終えるまで、多くの書物を著しました。

高橋省子

およそ40年前の昭和50年2月、インドで開催された世界卓球大会の女子ダブルスで、峰町出身の高橋省子さんが優勝しました。

高橋さん国際ペアで優勝



先月15日、インドのカルカッタで開かれた世界卓球選手権で、峰町出身の高橋省子さん（専大）は、女子ダブルスでルーマニアのアレクサンドル選手と組み、強豪中国チームを3-1で破り、優勝しました。なお、この快挙で日本チームは初ポイントを獲得しました。

歳時記

上三川町の自然は、春夏秋冬、年間を通して様々な顔を見せます。また、それとともに町内では多種多様な催しが行われ、町のさらなる発展や、子ども達の健やかな成長が願われています。

春



公民館フェスティバルではいろいろなイベントが行われます

上三川町には自然と親しむための公園が多数整備されています。暖かな休日には、春の陽光の下で、咲き誇る花々を楽しみます。



木道沿いに咲き並ぶ磯川緑地公園のあじさい



上三川城址公園では四方を囲む桜を楽しめます

公民館フェスティバル（3月上旬）／公園の桜（4月）／磯川緑地公園のあじさい（5月）

夏



一面にひまわりが広がるサンフラワー祭り

肌を焦がすような夏の日差しの下、かみのかわ町おこし夏祭りや夕顔サマーフェスティバル、サンフラワー祭りなどが行われ、町は熱気に包まれます。



山車やみこしが並ぶかみのかわ町おこし夏祭り



夕顔サマーフェスティバルのよさこい踊りと花火大会



かみのかわ町おこし夏祭り（7月中旬）／夕顔サマーフェスティバル（7月下旬）
かみのかわサンフラワー祭り（8月下旬）／愛宕神社奉納相撲（8月下旬）

秋

「秋」と言えば、食欲の秋、芸術の秋、行楽の秋、スポーツの秋などいろいろあります。上三川町では町の木である「イチヨウ」が黄色に色づき、田んぼには見事に実った稲が広がります。



平成26年度の文化祭には友好都市の大洗町も来てくれました



稚児行列ではきらびやかな衣装に身を包んだ子ども達が通りを練り歩きます



町民スポーツ・レクリエーション祭ではながなわ飛びなど多種多様なスポーツが行われます

町民スポーツレクリエーション祭(10月中旬)／上三川町文化祭(10月下旬)／農業祭(11月中旬)／ふれあい健康福祉祭り(11月中旬)／稚児行列・かみのかわふるさと祭り(11月中旬)

冬

肌を突き刺すような寒さの中を、駅伝やマラソンの走者達が駆け抜けます。また、新年には町内各所でどんど焼きが行われ、だるまが並ぶ初市も開催されます。



たすきをつないでゴールを目指すしらさぎ駅伝



豆をまいて鬼(災厄)を払う節分祭



大人から子どもまでたくさんの方が参加するしらさぎマラソン大会

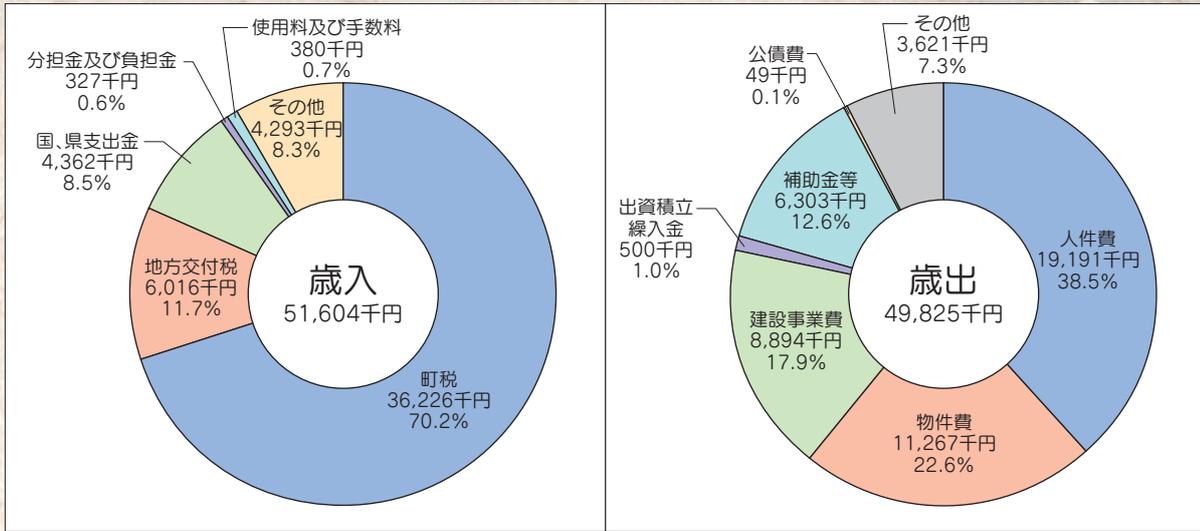


大小様々なだるまが並ぶ初市

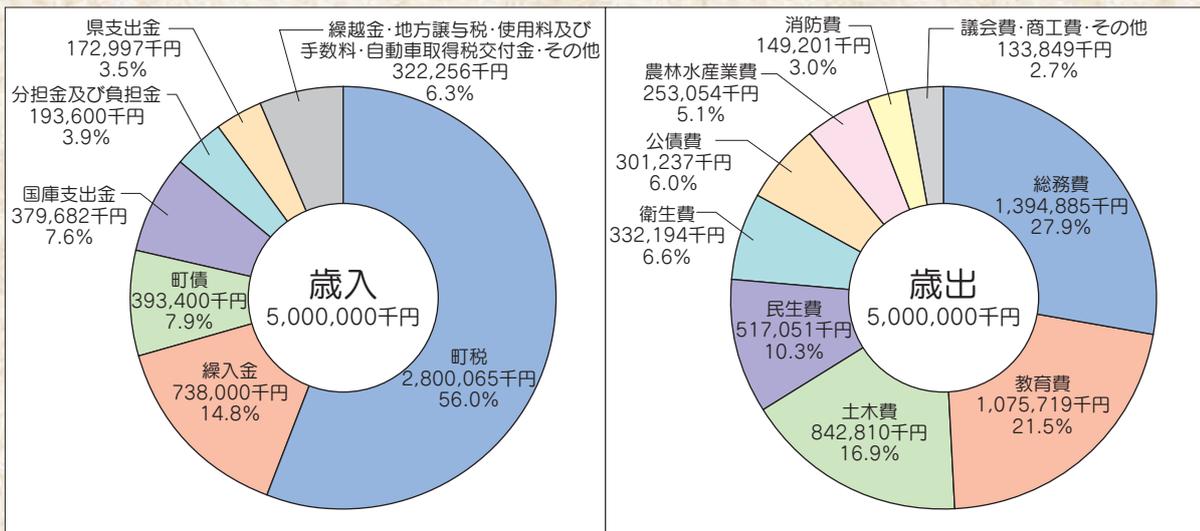
NISSAN しらさぎマラソン大会(12月上旬)／どんど焼き(1月上旬)／初市(1月中旬)／節分祭(2月3日)／NISSAN しらさぎ駅伝競走大会(2月中旬)

一般会計予算の推移

昭和30年度(決算額)



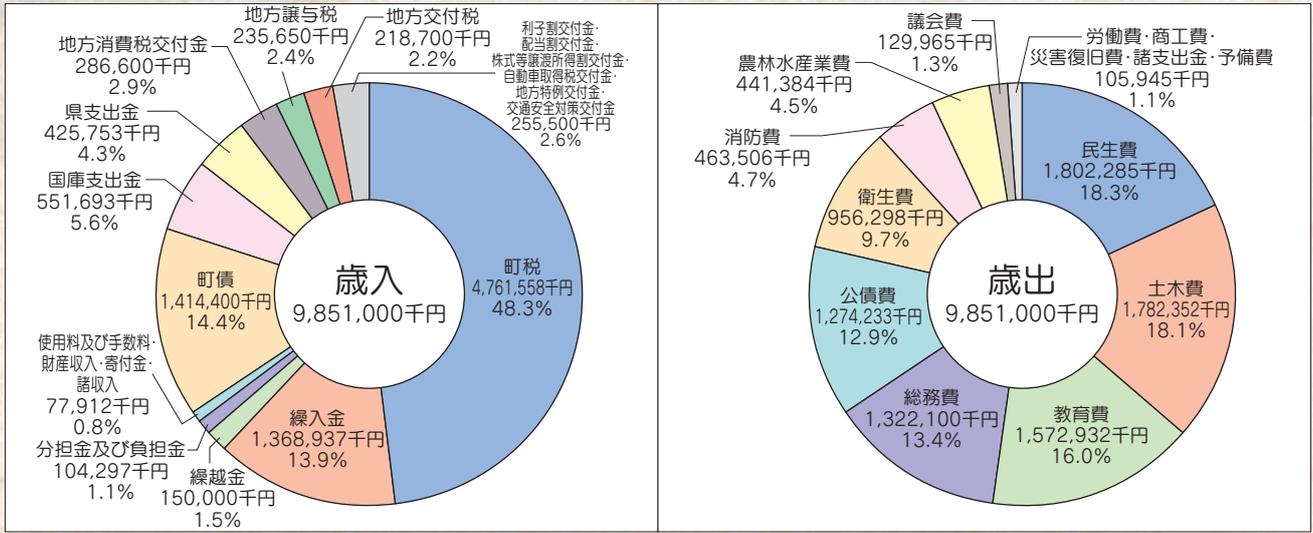
昭和55年度(予算額)



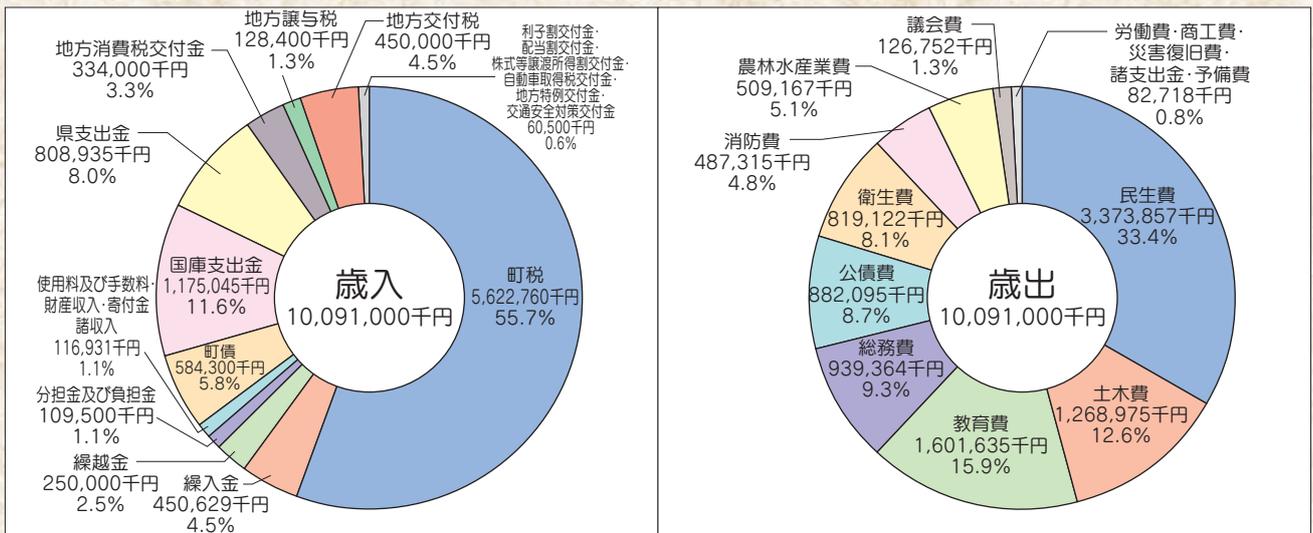
人口の推移



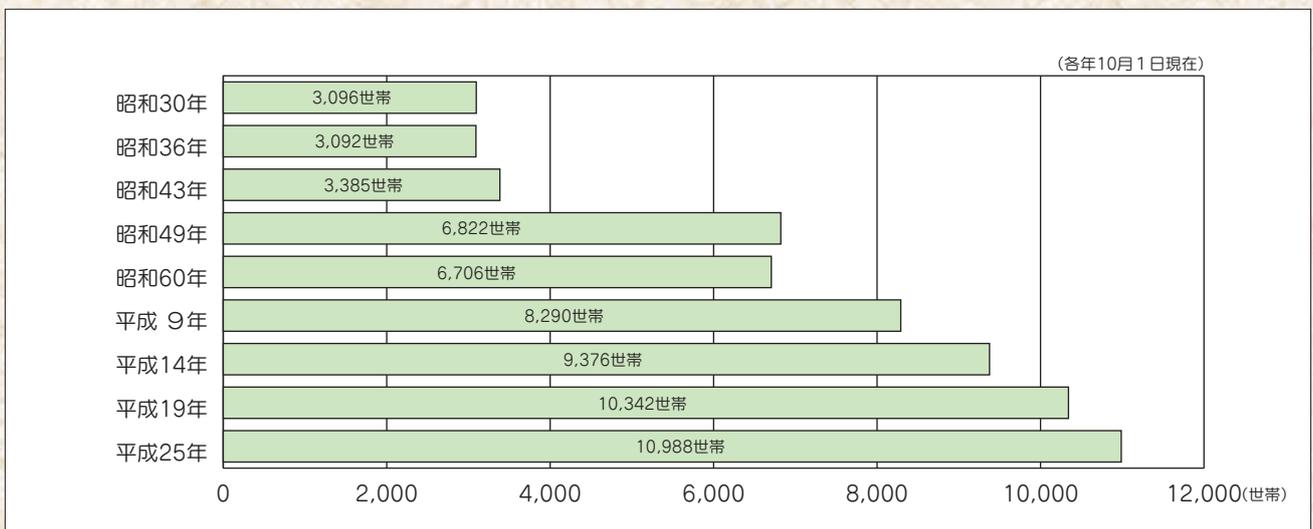
平成16年度(予算額)



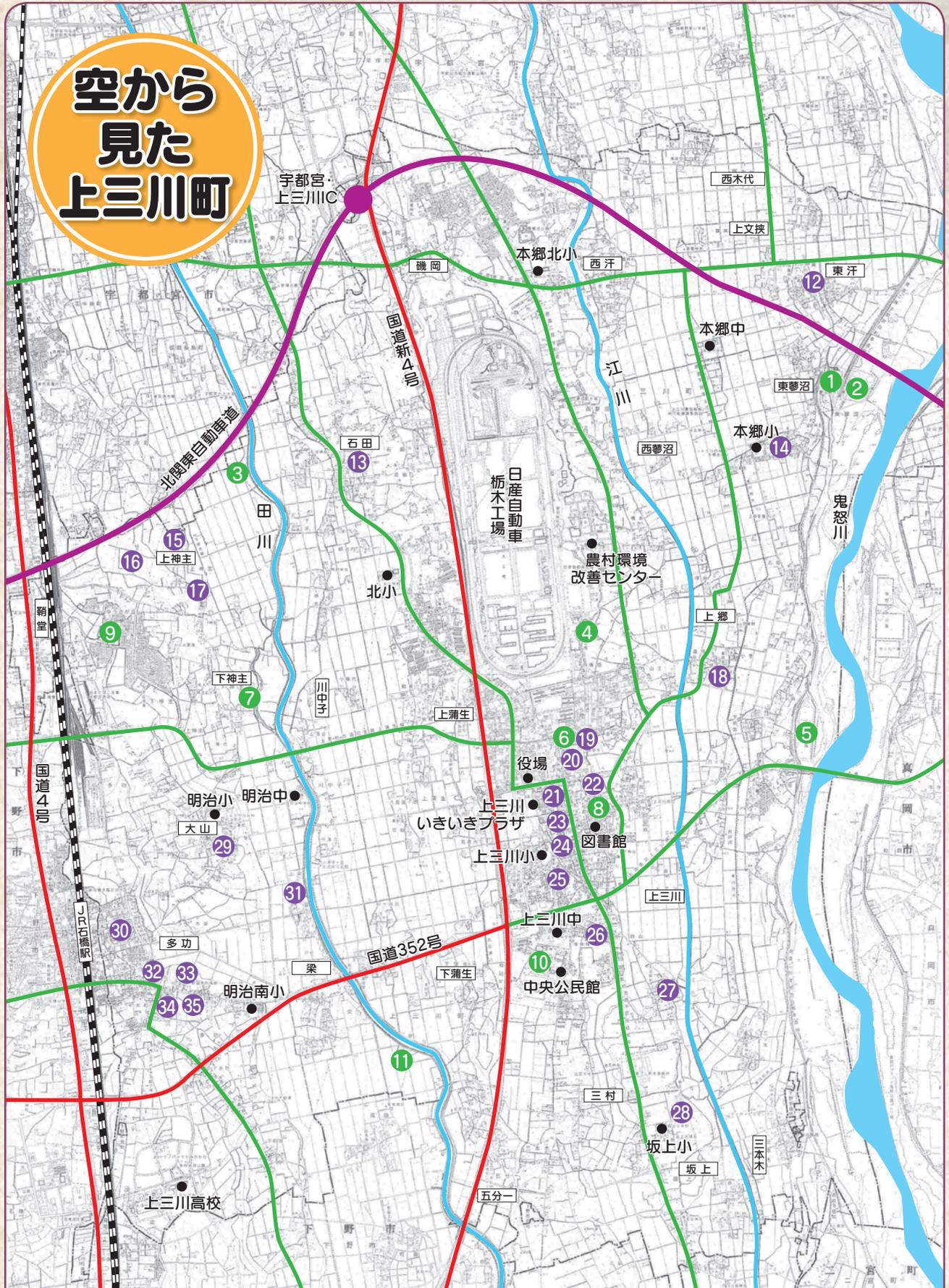
平成26年度(予算額)



世帯数の推移



空から見た上三川町



公園

- 1 蓼沼親水公園
- 2 蓼沼緑地公園
- 3 石田公園
- 4 磯川緑地公園
- 5 桃畑緑地公園
- 6 しらさぎ公園
- 7 水環境神主公園
- 8 上三川城址公園
- 9 ゆうぎ公園
- 10 富士山公園
- 11 田川ふれあい公園

神社・寺院・遺跡

- 12 満願寺
- 13 感應寺
- 14 満福寺
- 15 上神主・茂原官衙遺跡
- 16 上神主狐塚古墳
- 17 後志部古墳群
- 18 上郷神社
- 19 長泉寺
- 20 白鷺神社
- 21 普門寺
- 22 善応寺
- 23 正清寺
- 24 旧上三川町道路元標
- 25 愛宕塚古墳石室
- 26 かぶと塚古墳石室
- 27 野外石仏地蔵
- 28 坂上古墳群
- 29 浄光寺
- 30 多功廃寺跡
- 31 延命院
- 32 西念寺
- 33 多功城趾
- 34 宝光院
- 35 見性寺